

世代別・職業別タウンミーティング（聖カタリナ大学）（要約）

テーマ：学生の視点で松山市を考える

平成28年1月15日（金曜日）

【市長】 皆さんこんにちは。今日は、タウンミーティングということで聖カタリナ大学さんに来させていただきました。まず、タウンミーティングのご説明をさせていただいたらと思います。私が市長に就任をさせていただいて今2期目、6年目というところですが、市長に就任してからこのタウンミーティングを始めさせていただきました。松山市は旧松山市・旧北条市・旧中島町、合わせて41地区に分かれます。どちらが楽かという、皆さんが市役所に来られるのを待っているほうが楽ですが、果たしてそれでいいのでしょうか。我々のほうから各地区に出向いて行って、皆さんの声を聞かせてもらいましょう。魅力を聞かせていただいたら魅力は伸ばし、課題を教えてもらったら課題は減らす、そういうタウンミーティングを重ねてまいりました。できるところからすぐに市政に反映するというタウンミーティングを重ねてまいりました。市長の任期は1期4年、48カ月ですから、41地区を1カ月に1地区のペースで回っていかうと考えていましたが、おかげさまで好評になりましたので1期目4年の中で41地区を2巡りさせていただきました。2期目に入らせていただいたので、この地区別のタウンミーティングは今までどおり継続するけれども、世代別と職業別のタウンミーティングもしましょう。職業別だと、例えば農業関係の方や商店街関係の方に集まっていたら、また、世代別だと皆さんのような若い力がまちづくりに本当に必要なもので、若い世代の方、大学生世代や子育て世代に集まっていたら、のタウンミーティングを開催しています。今日、聖カタリナ大学さんにやってきましたけれども、1時間半という時間ですから肩ひじ張っていると緊張してしまいますので、ざくばらんに日頃思っていることを遠慮なく言っていただいたらと思います。今日は皆さんと松山のまちづくりについていい意見交換ができればと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

【司会】 本日のテーマ趣旨について市長からご説明いたします。

【市長】 先ほど司会からご説明をいたしました、いい加減な返事をして帰るわけにはいけないので、できるだけ即答しようと思うんですけれども、中には財政的に検討が必要なもの、国と絡むもの、県と絡むもの、そういうものについてはいったん持ち帰らせていただいて、1カ月を目処に

必ず返事をさせていただきます。やりっぱなしにしない聞きっぱなしにしないというのが松山市版タウンミーティングの特徴です。また、今回ホビノ・サンミゲル学長さんをはじめ、教職員の方々には大変お世話になりました。ありがとうございます。このように授業の合間に集まっていたいただき本当にありがたく思います。今日のテーマですが、聖カタリナ大学さんにご相談させていただく中で、ご覧のように「学生の視点で松山市を考える」とさせていただきました。サブテーマは皆さんが専攻されている、社会福祉学科・健康福祉マネジメント学科・人間社会学科・健康スポーツ学科・保育学科に沿った内容ということで「暮らしやすいまちづくりに必要なことについて」とさせていただきました。今日の世代別のタウンミーティングですが、松山の恵まれた立地、松山の宝を生かしたいと思っています。実は、皆さんも松山の宝です。松山には4年生大学が4つあります。そして、短期大学が3つあります。専門学校がおよそ20あります。この学生さんの人数だけでおよそ2万人います。この学生さんたちがまちづくりに関わっていただけるのといただけないのでは全然違う。こういった利点を生かそうと、これまでも学生さんによる政策論文や市長と語る若者会議などのワークショップを通じて若者の意見を市政に取り入れてきました。皆さんも聞かれたことがあると思いますが、まちづくりに大事な要素として3つ言います。若者・よそ者・ばか者。若者はまさに皆さんのような力ですね。よそ者というのは外からの視点です。ばか者というのは本当にばかという意味ではなくて、突飛な発想や奇想天外なアイデアが必要と言われています。日頃から聖カタリナ大学さんと松山市はいい関係が築けていると考えています。聖カタリナ大学さんと松山市の共同事業として、子育て支援ひろば「ぼけっと」の運営や災害時のボランティア活動の協定があります。また、子育て応援連携の協定による子育てのフリーペーパーを発行しています。さらには、はなみずき通りにある南部児童センターでダンスを教えてくれるなど、さまざまな分野で市政にご協力いただいている大変心強くありがたく思っています。まちづくりというのは、行政だけでやれることには限りがありますので、皆さんのように若い力、そして民間の力が大事ですので、そういったところでいい意見交換ができればと思っています。どうぞよろしくお願いします。

【男性】 保育学科1回生です。保育学科ということで暮らしやすいまちづくりを目指すうえで、育児や子育ての質問をさせていただきます。松山市がほかの市町村にはない特色ある施策など、子育てなどの関連で行っていることがあれば教えていただきたいなと思います。

【市長】 私の肝いりですが、保育園幼稚園の園庭の芝生化事業はご存知ですか。知っている方は、手を挙げていただけたらと思います。ありがとうございます。先生方は、たくさん挙げていただきました。できるだけわかりやすく説明したいと思います。松山市立の保育園幼稚園に園庭があるのですが、5つぐらいのメリットがあるので始めました。これは小児科の先生から教えていただいたのですが、勉強されているからご存知かもしれませんが、今の子どもたちはコミュニケーション能力不足と言われるようになってきました。子どもたちは、自分の気持ちを伝える能力をどのようなときに鍛えているのかというと、子ども同士で遊ぶときに鍛えているんだそうです。例えば、僕はこういう遊びがしたい、私はこういう遊びがしたい。子ども同士ですから、やりたい遊びと遊びがぶつかりますね。そうすると子ども同士で遊びを工夫する、中和する、我慢する。子どもが子どもたちだけで遊ぶときにコミュニケーション能力、自分の気持ちを伝えるということを鍛えているんだそうです。今、私たちが子どものときに比べると少子化のこともあるのですが、公園で遊んでいる人が少なくなっているように思います。ゲームをやるほうが楽しい、家でテレビを見るほうが楽しい。防犯的なことと言うと、子どもたちだけで公園で遊んだら危険な気がするとか、塾が忙しい、そういうことで子どもたちだけで遊ぶ環境が少なくなっているんですかね。そこで、このように（スクリーンを指して）松山市立の保育園や幼稚園の園庭を芝生化しました。園庭を約50センチ四方ぐらいの升のようにして、芝の苗を用意します。北条はゴルフ場が多いですが、園庭の芝生化というとゴルフ場みたいな立派な芝生が必要だと思うかもしれませんが、子どもたちが遊ぶ場ですからゴルフ場まできれいにしなくていいんです。少々雑草があってもいいですし。これはティフトンという発育や生育の早い西洋芝を使います。鳥取方式というのがある、それをヒントにやらせていただいています。鳥取方式をそのまま持ってくるのは難しかったので松山流にアレンジしているのですが、先生だけが植えるのではなくて、子どもたち、保護者の方も一緒に植えます。大きいところは地域の方も一緒に植えるんです。そうすることによって何がいいかというと、芝生というのは生き物ですから地域の方と一緒に植えると、自分が植えた芝生が育っているかなと園への関心につながっていくんですね。園への関心につながったら、そこで育っている園児が元気に育っているかな、頑張っているかなという園児への関心につながっていくんです。そうすると地域で子どもたちを育てていく環境につながっていきます。プラスの要因としてコミュニケーション能力の向上と地域で子どもたちを育てていく環境づくり、そして熱中症対策になります。普通の砂の園

庭と温度の上昇具合が違ってきます。大体6月ぐらいにきれいに生えそろいます。6月の状態が非常にきれいですね。コミュニケーション能力・地域・熱中症対策・砂埃対策にもなります。近所のご家庭に砂が飛んでいくことが少なくなるという利点もあり、松山市の幼稚園や保育園では芝生化をやっていきます。これらが特徴的な事業です。ほかにもいろいろ松山ならではの子育て事業をやっているのですが、時間の関係もありますので1つだけご紹介させていただきました。もう1つだけ言うと、子育てをとにかくバックアップしていきたいんですよ。子育て環境が整わないからなかなか子どもの数が増えないという社会は発展性がないと思うんですね。中には産みたくても産めない方がいらっしゃるんですが、子どもの数がなかなか増えない社会は発展性がないと思います。松山市では、できる限り子育てのバックアップをしています。市役所の中にも子育て経験者がいますよね。市役所職員は女性だけではなくイクメンもいますから、もちろん男性の子育て経験者にも集まってもらってどういう策をやったら子育てのバックアップできるか、また、子育て世代の人に集まっていただいてタウンミーティングをやって、そこでもできる策につなげています。とにかく子育てをバックアップしていきたいと思っています。

【女性】 人間社会学科です。課題を見つけたので報告したいと思います。聖カタリナ大学の門を右に出たところに狭い路地があり、そこから駅に向かうまでの道に街灯がなくて夜がものすごく怖いという女子生徒の意見を聞きました。授業や実習が多い学科があるので夜が遅くなります。不審者が出たというわけではないのですが、冬だと暗くなるのが早く危険を感じることもあるということです。また、狭い道路の割には、意外と車の通行が多くてスピードを下げずに通る車が多いんです。歩行者の存在に気づいてくれない車が多く、バッグがぶつかりそうになったとか、手がぶつかったという意見を聞くので、そこに街灯があれば少しは変わるかなと思うのですが、いかがでしょうか。

【市民部長】 市民部でございます。よろしく申し上げます。正確な場所については、この後詳しく聞かせていただきたいと思います。防犯灯に関する制度の説明をさせていただきます。松山市では、防犯灯は各町内会や自治会などに設置や維持管理をしていただいています。それに対して松山市が防犯協会を通じて費用の補助をしています。ですので、言われていたところに防犯灯を付けたいというときには、地元の方にお話をして、どこにでも設置するわけにはいきませんので、ここだったらいいというようなお話をさせていただいて、申請をしていただき設置するようにしてもらっ

ています。どういう方にお話していいかわからないと思いますので、この会の後に場所を確認させていただいて、こちらからご意向を伝えたいと思います。

【市長】 ちょっと教えていただいたらと思います。今、聖カタリナ大学さんの男女比ってどれぐらいですか。

【女性】 学科によって違います。

【市長】 学科によって違いますよね。これは先生に聞いた方がいいですよ。大体何割何割ぐらいですか。やはりまだ女性が多いですか。

【聖カタリナ大学職員】 半々ぐらい。

【市長】 急にふってすみません。今は共学ですから、男性ももちろんおいですが、やはり若い女性がいる場所で行き来しますから、一般的な地区より街灯は必要だと思います。松山市の街灯って3万灯ぐらいあるんです。なぜ町内会かという、3万灯の街灯全部を松山市で管轄していたら修理が遅くなってしまいますよね。松山市では、黄色の道路パトロールカーが道路を見て回っているのですが、街灯を全部チェックしていくとなると球が切れた場合の対応が遅くなります。ですので、町内会の方に申請していただき、地元の方々に管理をしてもらうかたちをとっています。道路で危険に感じる場所や防犯灯が欲しいなというところがあれば、会の後で遠慮なく言ってください。防犯灯のことは市民部長に言ってもらったと思います。それと、「ゾーン30」といって30キロ以下で走行しようという規制をしている場所があります。近くに北条小学校もあるので、この辺の道をゾーン30にできないですかね。交通管制、皆さんを規制するのは警察のお仕事ですね。信号機を付けるということは、赤のときは通っちゃダメですよって規制をするわけです。ゾーン30は、30キロ以下に規制するということですから警察の話なんですね。ゾーン30については、警察と話をしなくてはいけないのですが、この近所ではゾーン30を見たことがないですか。みんなそんなに意識しないですもんね。ゾーン30ができないのか、これも話をしてみたいと思います。

【男性】 社会福祉学科3回生です。韓国からの留学で松山にいますが、松山で有名なものは結構ありますが、韓国の観光客や友達に聞いたら温泉とミカンしか知らないんです。私がこっちへ来てまだ2年ですが、好きなものは鯛めしやじゃこ天などいっぱいあるんですが、そういうことが知られていないようです。松山市には愛媛大学や松山大学、聖カタリナ大学などに30カ国以上の留学生がいるということを確認しました。その留学生を活用して松山に隠れている有名な物や名物をネットやSNSを活

用して広げたらどうかと思います。それだったら、留学生が自分の友達から友達の友達へと口コミで、もうちょっと宣伝ができると思います。

【市長】 ありがとうございます。日本語がお上手ですね。韓国には、松山市の友好都市で平澤市という市が、ソウル市の南80キロのところにあります。去年の10月に平澤港マラソンというマラソン大会がありまして、10キロを平澤市の市長さんと走らせていただきました。松山市に外国人観光客が1年にどれくらい来ていらっしゃるかご存知ですか。9万人くらい来ているんです。約8万8,700人、平成27年は現在集計中ですので、平成26年の数字ですが、増えているか減っているかというところと増えているんです。どれくらい増えているかというところ、かなり増えています。前の年に比べると4万人、40%も増えています。色んなことをしながらたくさんの方の外国の方に来ていただいているのですが、外国人の方が旅行先を選ぶときに個人のブログなどのSNSを参考にしている割合が実際一番高いですね。ですので、留学生の皆さんにぜひ故郷のご家族やお友達に松山の魅力を写真やメッセージを通して発信していただきたいと思っています。学生さん留学生さんが、ただ発信するだけだったら困ることがあるかも知れないので、もし困った場合はどこの課に話をしてもらったらいいいですかね。

【地域経済課長】 産業経済部の中に観光・国際交流課という国際交流関係を担当している部署がございますので、何かご相談があれば、こちらへお願いします。

【市長】 松山市役所の中に観光・国際交流課があります。まさに、国際交流を担っているところですが、こちらへ相談していただければ困ったときはすぐに手助けできるようにしていますので、遠慮なくおっしゃってください。個人でインスタグラムやフェイスブック、ブログなどで発信してもらったら本当にありがたいので、これからも引き続きお願いします。

【女性】 社会福祉学科3回生です。私は社会福祉学科ですが、福祉の面とは違うかもしれませんが、お聞きしたいことがあるのでお話をさせてください。私はもともと南予の出身でこちらの大学に来るために松山に住んでいます。ここ北条はまだ道が狭いのですが、松山の市内のほうに行くと、3車線、4車線というのが当たり前で道幅がすごく広いです。私は交通手段が歩きだけなので普段は歩いて動くのですが、松山の広い道を歩こうと思って横断歩道を渡るんですけど、横断歩道の歩ける時間が短くて、最初にスタートしても最後まで渡りきれないお年寄りの方をよく見かけます。そういう方とは一緒に渡るようにして、車にひかれないように気を付けて

はいるんですけど、時間を増やしたり、もっと高齢者の方が渡りきれぬような努力ができないかなと思って聞きたいと思います。

【都市・交通計画課長】 都市・交通計画課長の石井です。よろしくお願ひします。信号の赤と青の切替えについては、専門用語で信号現示と言ひます。

【都市・計画交通課長】 信号の所管は警察ですが、高齢者が歩く速度、1秒間に何メートルという基準がありまして、それで高齢者の方が渡りきれぬ信号の青の表示時間を設定しています。例えばスクランブル交差点で斜めに横断歩道がついている交差点と斜めについていない交差点では時間設定が違ひます。街中でいうと、大街道の場合は斜めに横断歩道がついていて、すぐ横の全日空ホテルの隣の裁判所前のところは斜めに横断歩道がついていません。斜めにすると距離が長くなり、その分を青で表示するので車の通行時間を短く設定しています。後で、渡りきれぬ箇所の場所を教へてもらって警察に相談したいと思ひます。

【市長】 ここの信号がちょっと短いような気がするとか、遠慮なく言ってもらったらと思ひます。石井課長に言ったらいいですかね。90分ですぐ帰るわけではないので安心してください。先ほど私が申し上げた話で、規制する、管制するというのは警察の仕事だよと言ひましたけど、皆さんわからないですよ。道でも大きい道からいうと、国道があつて、県道があつて、市道があつて、私道も農道もありますね。皆さん、どこが市(私)道で、どこが県道で、国道は大きいからわかると思ひますけど、494号線とかもあるのではなかなか難しい。市は一番皆さんに身近な自治体なので、道のこととか横断歩道のこととか遠慮なく言ってもらったらと思ひます。やっぱり高齢化社会なので、基本的には横断歩道もより皆さんの動きに合ったものになっていくかなと、それは警察で判断されることですが、秒数も長くなっていくのかなと思ひています。一緒に歩いてくれてありがとうございます。そういう優しい気持ちがいいと思ひます。

【女性】 1年保育学科です。将来、保育士または幼稚園教諭を目指しているのですが、募集を見ても給料をみんな気にしています。実際に実習に行って子どもたちと触れ合えて楽しく過ごす部分もありつつ、やっぱり思いどおりにならない子どもたちを相手にして大変だなと思うようになって、大変なのにそのお給料なのかと残念に思っている子たちもいっぱいいます。現場で男性職員がいても家庭を持つとなると、そのお給料では家族を養っていくことができず辞めていく人がいます。そういうところに注目してほしいなと思うのですが、対策とかを何か考えているのかと思ひ

って質問しました。

【保健福祉政策課長】 保健福祉政策課の野本と申します。今おっしゃられた保育士さんとか、今問題になっている介護関係の職員さんとか、給料が少なく、最低基準は決められています、最低基準ではなかなか生活していくのは難しいだろうということを報道でもよく目にすると思います。国でも処遇改善というところで保育士さんや介護関係の職員の方の給料を底上げしようとして取り組んでおられますが、民間企業になると、雇う人と雇われる人との間のお話になりますので、なかなか目が届きにくいとか、満足いくお給料がもらえていないのが事実ではないかなと思います。市が直接そこに指導ができるかという、法律に基づくところのお話になると指導できますが、その範囲内で雇う方、雇われる方がお話しして決められるということになるとなかなか手が出せない、指導もできない現状だと思います。おっしゃられるように、魅力ある職場でそれ相応の給料がもらえる方向に国も持っていこうとしていますので、市としてもそれに合わせて取り組んでいけたらと考えています。

【市長】 松山市は人口30万から70万人の中核市というところに入ります。中核市の市長とか副市長が集る中核市サミットというのが昨年の10月にあり、その中で私も発言させていただきました。今、ニュースとかで地方創生とか子育て支援という言葉が聞かれたことがあると思います。国として子どもの数が少ないということが言われています。松山市とか松前町とか大洲市とか、そういう市町の話ではなくて国全体としての課題です。私の中核市サミットの中で発言したのは、子どもの医療費助成についてで、医療費の自己負担を無料にするというものですが、市町によって何歳まで無料にできるか、年齢制限が違います。入院と通院があります。風邪を引いて病院に行くので通院するときと、ちょっと複雑骨折しちゃった、入院しますというときの通院と入院があります。例えば、通院は小学校3年生まで無料にしますという市町村もあれば、いやいやうちはもうちょっと頑張って小学校6年生まで無料にします。いやいやうちはもっと頑張って中学校3年生まで無料にします。各市町で頑張ってやっているんです。子どもが入院しないといけないのに家計が苦しくなるから、本入院させてあげることができないというのはあまりにもつらい現状なので、入院については比較的通院より手厚くやっているところがありますね。松山市は中学校3年生まで入院については無料になっています。これは各市や町が競い合うようにやっているんです。でも、おかしくないですかという話を市長の立場として発言をしました。これは国全体として子育てをバックアップしないといけないのだから、自分たちの市や町で持ち出しをしてサ

一ビス合戦をするのはおかしい。国として何年生までは無料にしましょうと統一基準を設けないと、おかしいでしょうという発言をしてきました。それでは、保育士さんの話になります。保育士さんの確保はどここの市町も苦勞しているんです。中核市サミットで一緒になった船橋市さんは、「うちで保育士さんになってくださいよ」と、「ふなっしー」を連れて関東一円をキャラバンして回っているんです。「うちの市で保育士さんやってください。」保育士さんが足りていないから、どここの市町も保育士さんを確保しようとしているわけです。これもどここの市町も課題になっているから国としてやるべきじゃないですか。我々は地方の市町として国に発言している。ここから、もう1つのテーマに入ります。そういう国として何をやるかというのを決めていくのは選挙です。誰に投票してくださいという話ではなくて、若い世代が選挙に行かないと、より皆さんの声は反映されなくなります。人生の先輩方は比較的選挙に行きますけれども、考えてみてください。おじいちゃん・おばあちゃんが必ず選挙に行くんやったら、政治家は誰に対して策を打つかというと、おじいちゃん・おばあちゃんに打ちますよね。どうせ若い人の策をやったって選挙に行ってくれんのやけん、やってもしょうがなかろうということになります。やっぱり若い世代の皆さんが自分たちの日本なので、皆さんの世代がちゃんと投票に行かないと、これ間違えないでくださいね、誰に投票してくださいという話ではなくて、自分たちの世代が選挙に行かないと皆さんの声はますます反映されなくなりますから、選挙のたびに人ごとじゃなくて我が事と思って、選挙に行くことが大事です。面倒くさいなと思うかもしれませんが、そういう意味で選挙に行くということはすごく大事なことなので、皆さんの意見を反映させてもらったらと思います。

【女性】 保育学科1回生です。保育学科なので子どもについてですが、最近の子どもたちは食物アレルギーが本当に多くなっていて、私も一昨年突発性で発症したんですけど、昔よりも食物アレルギーを持つ子が増えてきているという話を聞いて、その食物アレルギーが発症するだけでショック死する子どもたちも多いので、それについての原因追究と市でしている対策があったら教えてください。

【市長】 今、松山市は共同調理場方式というのをやっています、北条に新しい給食の施設ができました。こういう大きな施設でやると、アレルギー対応食をすることができます。アレルギーを心配されるお子さん、お父さん、お母さんが増えていきますので、そういう対応ができるような大きな方向性で進めていきます。保健福祉政策課長から何かありますか。

【保健福祉政策課長】 学校給食の中では個別対応として、各ご家庭から例えばそばアレルギーがあるとか、ピーナッツアレルギーがあるとかを申し出ていただいた上で、それらを取り除いた、対応した食事を提供するように取り組んでいます。

【市長】 やっぱり子育てに関わる人ってものすごく大事なんですね。実は私事になるのですが、私の姉が4つ上で妹が6つ下で、ともにここの出身です。姉は幼稚園教諭をさせていただきましたので、まさに先輩になるんです。今、世間の流れとして、昔はおじいちゃん・おばあちゃんと一緒に住んでいる同居の方が多かったですね。でも生活スタイルの変化もあって、若いお父さん、お母さんで住んでいるケースがだいぶ増えています。そうすると子育てに教科書はないですから、1人目のお子さんなんて大変ですよ。近くにお父さん・お母さんがいて手伝ってくれるとか、昔みたいに近所の人が出てくれるということだったらまた別だと思うけど、そういうつながりがないと子育てはしんどいんですよ。だから、保育士さんの存在、子育てを助けてくれる人の存在は大事です。大事なお仕事なので頑張ってくださいねと思います。

【女性】 保育学科1回生です。最近、子どもの虐待がすごく多くて、特に乳児たちが虐待されたというニュースを聞きます。愛媛県でもこの前に虐待のニュースがあったので、乳児虐待は私たち保育士などが率先して発見していきたいと思います。そこで、国や市などの人たちが考えている虐待の解釈や発見をどのように行っているのかを教えてくださいたいです。

【保健福祉政策課長】 今、お母さん方も子どもをどう育てていけばいいのかわからないというところで虐待という問題になるのかなと考えています。それは子どもさんが産まれる前からずっと取り組んでいく必要があると考えています。一番最初に関わるのは母子手帳を市へ申請に来られるときで、松山市の市民課や保健所の窓口でお渡しをします。保健師が直接面談をして相談に乗るなかで手帳をお渡しする。市民課にも保健師を配置していますので、そちらでも保健師が直接お話をして相談に乗る中で手帳を交付しています。それから、産まれた後も「こんにちは赤ちゃん訪問事業」ということで、産まれた赤ちゃんのいらっしゃる家庭には保健師が行くところと、職員ではないんですけれども母子健康推進員さんがすべての家庭を回って、「大丈夫ですか。ちゃんと育てられていますか。」と相談に乗る中で、この人は危ない、大丈夫かなというところへは、子ども総合相談センターの保健師、保育士、心理判定員が再度訪問し、ちゃんと子育てができるように相談、支援しています。できるだけ虐待が起きないように

にし、起きたときも次の対応が取れるように取り組んでいます。

【市長】 子ども総合相談センターは場所がどこにありますか。

【保健福祉政策課長】 場所は築山町にあります。八坂小学校のすぐそばで、青少年センターの中に子ども総合相談センターがございいます。

【市長】 私から補足ですけど、市役所は皆さんと一番近い自治体が市役所ですとお話をしたんですけども、県庁に行く人は少ないと思いますね。ましてや国の役所に用事があって行く人はもっと少ないと思いますね。市役所の中に福祉総合窓口というのをつくりまして、市役所にはおじいちゃんやおばあちゃんも来られます。体の不自由な方も来られます。赤ちゃんを抱っこしたお父さんやお母さんも来られますね。そういう人に「その部署は2階なんで2階に行ってください。その部署は3階なんで3階に行ってください。」というのは不親切だと思うので、松山市役所はスペースがないんですけど、思い切って別館1階に福祉総合窓口というのをつくったんです。できるだけ親切にということが松山市の基本理念です。それと子ども総合相談センターですが、「これは教育の話ではないですか。これは福祉の話じゃないですか。」と言っていたら、虐待防止なんてできないですよ。教育と福祉がしっかりと連携してやることが大事ということで、このセンターをつくりました。保健福祉政策課長から言いましたように社会福祉士、心理判定員、保健師、保育士、教員、警察OBなどが協力して対応しています。皆さんにお願いですけど、もしご近所で「毎日毎日、長時間泣いているぞ。おかしいんじゃないかな。」ということがあったら、遠慮なく連絡していただいたらと思います。そうやってみんなの目があれば犯罪を防いでいけるところがあるので、皆さんもできる役割がありますので、遠慮なく言ってもらったらと思います。

【男性】 社会福祉学科の3回生です。僕は社会福祉学科ですけど、ボランティアセンターというところに所属していて、この前、松山市社会福祉協議会さんと災害についてボランティア協定を結ばせてもらいました。松山市社会福祉協議会さんは防災や災害に対する取り組みを結構しているんですけど、南海トラフ地震も来ると言われているので、松山市はどのような防災や災害支援をしているのか教えてもらえないでしょうか。

【市長】 手前味噌なのですが、結構、松山市は頑張っているかなと思います。でも、防災に完璧はないので常にあげていくことが大事だなと思っていますのですが、協定はありがとうございました。災害時のボランティア活動を聖カタリナ大学さんにやっていただけるというのを非常にありがたく感じています。これは皆さんにも関係のある話なので、ちょっと視点

を変えます。私の名刺は名前の下に防災士と入れています。私は防災士の資格を取っています。消防も大きく分けて消防職員と消防団員がいます。皆さんの中で、消防団員がどういうものか説明できますという人がいたらすごいなと思いますが、消防団員を説明できる人いますか。いないですよ。松山市も大学生の中で消防職員になりたいという方が多くて、志望をしてくれる方が多いのですが、消防団員というのは例えば普段は農業をやっていたりとか、自分で商店をされていたりとか、そういう方が自分の仕事を持っていて、いざというときに消防団員として活動してくれる人を消防団員といいます。全国ではサラリーマン化が進んでいるので消防団員はどんどん減少傾向ですけど、松山市は消防団員が増えてきているんですよ。これは非常勤の特別職地方公務員としてお給料を払わないといけないので、やたらめったら増やすわけにはいかず定員があるんですけども、消防団員の数は四国で一番を誇ります。全国では減っているんですけども松山市は増やしてきています。どうやって増やしてきているかということですね、ちょっと工夫をしまして、「まつやま・だん団プロジェクト」という消防団員を増やすプロジェクトをやって全国でも注目をされているんです。さっき名刺に書いていると言いました防災士は、全国の自治体でトップなんですよ。二番はこの防災士が大事だよと知っている大分市、三番が名古屋市です。名古屋は225万人の都市なので、松山市の4倍以上の人口ですけど、その名古屋市よりも松山市は防災士が多いんです。〇〇さん体重何キロですか。60キロぐらい。私と△△さんが二人で〇〇さんを運ぼうと思ったら、30キロを持たないといけないから、たぶん運べないと思います。〇〇さんが倒れてしまったら、男4人ぐらいで運べないとなかなか運べないと思います。おんぶしても長い距離を運ぶのはしんどいですよね。私たち防災士は、棒2本と毛布があったら担架をつくって運ぶことができます。AEDももちろん使えますし、人工呼吸のやり方も知っていますし、そういう防災士の資格を持っている人がたくさんいると、松山市の防災力が上がりますよね。今は知事になられていますけれども、前市長の中村時広さんのときから税金を使わせていただいて、防災士を増やすという取り組みをやってきたので、今、松山市は一番です。保育士さんになりたいなという方もいらっしゃいますけれども、今、松山市は防災士を増やしているのですが、小さいお子さんのそばに防災士がいたら心強いですよ。小学校の先生や保育士さん、幼稚園の先生に防災士の資格を松山市は取ってもらっているんですよ。「そんな、もう忙しいのに取れないですよ。」と言われると思うけど、夏休みだったら取れることないですか。私も夏休みに一緒に取らせていただきました。また、こういう防

災士の資格を学生さんに取ってもらおうと、長い間活動がしてもらえます。消防団員さんには、大学生防災サポーター、大学生の消防団員も含まれています。こうやって知恵と工夫で増やしていますが、南海トラフの災害が起こったときに、どう動けるかというのを常に考えながらやっていますので、関心を持っていただいて、こうやってしたらいいんじゃないかなというのがあったら遠慮なく言ってもらったらと思います。みんなで防災力を高めていくことが大事になります。

【女性】 人間社会学科3回生です。私はよくバスを利用させてもらうのですが、夜遅くに使うことが多いので、「もう1本だけ夜遅い便があればな。」と思うことがよくあります。増便しないのかなと思っていますが、どうですか。

【都市・交通計画課長】 都市・交通計画課の石井です。まず、松山市の公共交通についてですけれども、公共交通は松山では伊予鉄道さんとJR四国さんです。特にバスは伊予鉄道さんが主に運行をさせていただいています。電車・バスを含めてなかなか難しい問題でして、昭和44年がバスの乗降客のピークで、今はそのときの6分の1という状況です。よく話すのは、乗っていただけると便数も減らずにすむということです。皆さんが車に乗ってしまうと、乗る人数がだんだん少なくなり、そうすると運行間隔も間引きされてしまうので、負のスパイラルと言われるんですけど、そういう状況になっているのが現状です。そこで、松山市と愛媛県では伊予鉄道さんに路線維持のためのお金を出している状況です。それでも伊予鉄道さんのバスの便数を増やすのは難しい状況にはあります。そういう中でも、例えばナイトバスという金曜日に北条、川内、森松方面に通常よりも1時間遅いバスを出す取り組みをしていますので、個別にここの路線でどうかというのは、また後で教えていただいたらと思います。やれることもやっていますが、公共交通はなかなか厳しい環境にあるという状況です。私もこういう仕事をしているので、なるべく公共交通を使うようにしています。思いがあって、将来、自分が高齢者になって車が運転できなくなったときに、この路線は残ってほしいなという思いを持って週1回とか利用しています。とにかく思い入れで将来自分が乗れなくなったときに、あってほしいという思いがあるので、若い方もそういうことをちょっと考えながら、公共交通もある一定の利用をしていただきたいと思います。他市の例では石川県にある金沢大学ですが、金沢大学は結構郊外にあり、学生の皆さんが車で通わないといけないところです。そこで、数年前に金沢大学と金沢の交通事業者が市の仲介のもと、バストリガー方式という方式でバスを運

行していました。1回百円ですけれども、ある一定の人数が乗らないとバス路線は廃止しますという協定を大学と交通事業者である北陸鉄道(株)さんと結んで運行していました。もし、そういうことを学生さんが望まれるのなら、ご相談いただけたらと思います。

【市長】 ちょうど今日、松山市役所から移動してくるときに聖カタリナさんのバスがあったんですけど、さすがに夜遅くまでは運行できないのでしょうね。状況はよくわかっていないですけど、もし聖カタリナ大学さんで確実に夜何時に利用したいですみたいのがあったら、まとまったら伊予鉄道さんも話に乗ってくれるのかなと思うんです。学生さんがまとまって先生も巻き込んで動くと、個々で言うよりは伊予鉄道さんと話をするときも、また松山市が仲介に入るといことも可能だと思いますので、サークルが終わってこの時間に必ず帰るので、これだけの人数が見込めて利用するのでとなったら、動かしていく力にもなるのかなと思います。先ほど1つ言い忘れたことがあって、今日、傍聴に来られている菅議員さんは、歯医者さんをされている市議会議員さんですが、実はネグレクト（幼児虐待）を発見するのに、松山市は歯医者さんと連携しています。この前に地元紙にも出たんですけども、口の中の状態を見ると、幼児虐待をされているんじゃないかなという傾向がある程度わかるんです。松山市の歯科医師会さんが自主的に動いてくださって、幼児虐待を防ぐという動きをしてくれています。こうやって行政だけじゃなくて、みんなで一緒に動くとき色んないい取り組みができますので、いい事例として紹介をさせていただきました。

【女性】 人間社会学部です。先ほど、バスのことについて意見が出たので、私も手を挙げたのですが、私の住んでいる地域はバスが2本しかないんですね。住んでいるところは松山市内ですけど、その2本の中でも行先が全部市駅のほうに行くので、私の住んでいる地域はお年寄りの方がとても多くて、そのお年寄りの方がどんどんお年をめされて車が運転できないということになったら、普段の日常の買い物が困難になると思います。タクシーでスーパーに行くのに千円かかるとばからしいと思っているので、先ほどバスの便を増やすのは難しいということを知ったので、タクシーでもなくバスでもなく、家からスーパーに行けるような何かもう1つ交通手段があればいいなと思うのですがいかがでしょうか。

【保健福祉政策課長】 今、おっしゃられたように、お年寄りになって免許のない方、また免許を持っていても車に乗れない方がどんどん増えているように思います。買い物難民が、どこの自治体でも問題になってきてい

ます。松山市でも山間部や街中にあっても、そういう方がいらっしゃると思いますので、どういう方がどういったニーズを持っておられるかをまずは把握する必要があるのではないかと考えています。民間の商業施設、例えば北条でいいますと、ハトマートがお買い物バスを出してマイクロバスで地域の人を集めてハトマートまで乗せて行って、お買い物をしている間は外で待って、また送ってもらうということを各地区を回りながらやっています。また、松山市の地域に行きますと、範囲はありますが、セブンスターさんが商品を積んで移動販売車を運行して、お買い物に困っている地域を回っているところもあります。そういったところも踏まえながら、松山市がどのような取り組みをしていったらいいのか、今後考えていけたらと思います。

【都市・交通計画課長】 バスの導入は難しいと言いましたけれども、日浦地区では、石手川ダムのずっと奥の玉川に近いところの集落ですけれども、そこで4～5年ぐらい前に地元の方がワークショップをしました。これは、伊予鉄道さんが路線をやめたいという話があって、代替えの交通手段は何があるかということで地元の方と話をすると、逆に1便増便したということがありました。こういうこともありますので、全くゼロということではないです。今、バスについては、バスも鉄道も各地区にアンケート調査を去年行いまして、それを回収して集計中ですが、どういう使われ方をしているか、さらにバス停の位置とかバスの運行頻度はどうなのがいいか、今後検討していくことにしています。バス以外にもエリアの足を確保する交通機関としてデマンドタクシー、タクシーで乗り合っという公共交通も、手段として考えられます。さらに、去年興居島で過疎地有償運行を開始しました。隣の家の人「港まで出るんだったら、乗せて行ってください」というのを乗せていくと、タクシーだと問題ないんですけども、白ナンバーの車で近所の人がお金をもらって、近所のお年寄りを病院に連れて行くのは道路運送法上は違反になります。それを許可を取って、ある基準を満たしたら白いナンバーの車でも乗せていっていいですよという方式が過疎地有償運送という方式です。去年、興居島で始めました。色んな交通の手段、バスだけではないやり方もありますので、今後地域の人とも話をしていきますけれども、こういうほうがいいという意見もまた聞かせていただければと思いますので、よろしくお願ひします。

【市長】 基本スタンスとして、松山市は公共交通を知恵と工夫で残していきたいというスタンスです。ですので、地域の声もあると思いますので、何かあったら遠慮なく都市・交通計画課に相談してもらったらと思います。実際に、興居島も高齢化してきて、港までどうやって行こうかというところ

ろで地元の方々にもご協力いただいて、過疎地有償運送という興居島のタクシーができました。とにかくそういうものを残していきたい、足を確保していきたいと思っていますので、遠慮なく言ってもらったらと思います。

【男性】 さっき防災について話が出ましたが、留学で日本に来ていますが、韓国出身だから、地震などを経験したことがないので、初めに日本に来たときに心配するものが地震です。日本に来て地震を何回か経験したんですけど、20年以上暮らしてきても経験したことがなかったので怖かったです。外国人がこちらに来たときには防災や地震が心配なので、地震が起きたときにどうやって自分の身を守るか、映画とかではよくあるんですけども、やはりそれでは足りないと思います。それで、福岡に旅行に行ったときに、地震を体験する場所があって見たことがあります。松山ではそういう場所がないらしいので、あったら留学生や外国人観光客にいいと思います。

【市長】 いいこと教えてもらいました。確かに日本は地震が多い国ですから、日本人は地震に慣れているかもしれませんが。留学生の方は、日本人より地震に慣れていないかもしれませんね。国際交流協会というところがあるんですけども、ここですでにしているかもしれませんが、ちょっと調べてみます。松山の国際交流協会と一緒に、海外を知ってもらおうというので、留学生とも協力して色々な国のことを知ってもらおうという「地球人まつり」をやっているのですが、留学生の方とのつながりもあるので、留学生の方が希望されるのだったら、起震車という地震を起こす車を体験していただくのも大事なことだなと、ご意見をいただいて思いました。起震車は震度7が体験できます。私は、ご存知の方も多いかと思いますが、前の仕事でアナウンサーを20年やっていて、大きな地震が起こった際にアナウンサーが慌てていると、見ている人はもっと慌てますから、アナウンサーが落ち着いて話すことが大事、必要なことを落ち着いて話すことが大事ということで、起震車を体験しているのと体験していないのでは大違いです。できるだけ、起震車を体験してもらっていたほうがいいですね。ですので、留学生の方にも体験してもらうのは大事なことだなと思いました。聞かせていただいてありがとうございます。ご家庭で防災マップは見たことありますか。

【男性】 あります。

【市長】 すばらしい。防災マップ、家にあったなという方、手を挙げてみてください。ありがとうございます。実は、地震のときにどうしたらいいかという話をしますが、これは全戸配布ですから皆さんのご家庭にいつ

ているはずですが。家に帰ったら確認してみてください。松山防災マップがあります。これは、専門家の方とよくよく意見交換をしてつくっているものですけれども、では問題を出しましょう。トイレにいるときに、大きな地震に見舞われた。何をすることが一番大事でしょうか。

【男性】 ズボンをはく。

【市長】 それは大事かもしれませんね。これですね、いきなり聞かれたら困ると思うんですけれども、実はトイレの場合は比較的安全な場所だと言われています。ユニットで区切られているところは比較的安全な場所と言われているので、ドアを開けて出口を確保したら揺れがおさまるのを待ちます。これがトイレにいるときの地震が起こったときの防御法です。お風呂に入っているときに大きな地震にあったら、何をすることが必要でしょうか。

【男性】 体を拭く。

【市長】 急に聞くとあれですね。これも、浴室はユニットで区切られていますから、比較的安全な場所と言えるかもしれません。まず、ドアを開けて脱出路を確保する。トイレとお風呂は一緒ですね。脱出路を確保する。そして、揺れがおさまるのを待ちます。ボイラーの火は消します。これが違いますね。浴槽では、風呂のふたなどをかぶり頭部を守りましょうということですね。これ全部、皆さんのご家庭にお配りしている防災マップに載っています。どういうものを避難の袋の中に入れておいたらいいかや各地区でどこに避難したらいいですよということが書いていますので、ぜひとも防災マップを利用していただけたらと思います。私からあと1つだけ。この防災マップは、東日本大震災が起こって新たに去年の2月に発行したものですけれども、前の防災マップに書かれていたのは、松山市民の8割が何らかの災害に遭遇すると思っているんです。でも、家で家具固定している方は2割ぐらいしかいません。この8割と2割の差ですね。私は、防災士の資格を取っていますという話をしたんですけれども、防災士の資格を取るときに勉強したのですが、引越しのときのことを思い出してもらおうと、タンスって重いでしょう。タンスって1人で持てないですよ。タンスの中の服とか本とか全部のけても自分ひとりで持つのは大変なことですよ。そのタンスや家具を固定していなかったときに、大きな災害があったらどうなるか。震度7ぐらいの大きな地震が起こったら、そういう重い家具が倒れてくるような状態で飛んできます。当たらなかつたらいいんですけれども、当たり所が悪かったら、かなり大きな怪我をします。体に当たらなくてよかつたじゃなくて、タンスが倒れてしまつたら逃げ道がなくなるかもしれません。そう考えると、家具固定はやっておかないと危な

いなというのをわかっていただけたと思います。松山市民の7～8割は、何らかの災害に遭遇すると思っただけけれども、逆に2割ぐらいの人しか家具固定をしていないというアンケート結果がありますので、皆さんもご家庭に戻ったら家具固定されていないと危ないなと思って、またホームセンターに家具固定の器具がありますから、買っていただいて固定していただけたらと思います。

【地域経済課長】 すみません。先ほど「地球人まつり」の話がありましたが、明後日17日の日曜日にコミセンの一番西側の企画展示ホールで開かれます。20カ国以上の方々がブースを出されているので、ぜひお立ち寄りいただければと思います。

【市長】 コミュニティセンターで今度の日曜ですね。

【男性】 社会福祉学科です。先ほど子育て環境の整備というところで、ポットの苗づくりや児童クラブの開設であったり、医療費のサービスの提供など、子どものために行っている支援は僕も松山市でよくされているというのは知っているんですけど、子どもが外で遊ぶことが少なくなったということで、先ほど市長からも家の中でゲームをしたりすることが楽しいであったりとか、塾とかで時間を割いて友達と遊ぶことが少ないとおっしゃっていたんですけど、実際、根本的に公園でボール遊びなどができないというところがまず前提にあるのではないかと考えました。それが体力の低下であったり、家の中でゲームをしたりすることにつながってくるということから、大人が多く支援する一方で子どもの遊びなどを規制している部分も多いのではないかと考えたので、小学生や中学生などの子どもの意見をもっと尊重してあげるべきじゃないかと考えるのですが、その点についてお願いします。

【市長】 実は皆さんがおっしゃったようにボール遊びができる公園を松山市は増やしたいなと思って増やしていているところなんです。公園の中でボール遊びができないところがあるけど、あれはどういうことなのと思われるかもしれませんが、実はこういうことがあります。松山市は市長へのわがまちメールという市長に直接届くメールの制度をとっています。今日できるだけ発言してもらったと思うのですが、今日、時間終わって発言したかったけどできなかったなという方は、松山市役所のホームページから入れますから、市長へのわがまちメールを利用してもらったらと思います。市長へのわがまちメールでこういうメールが来ました。公園のすぐそばに住んでいる女子中学生さんからのメールでした。どういう内容かというと「うちの家は公園のすぐそばにあります。困ったことがあって、私の

家にボールが飛び込んできます。そのボールを取りに遊んでいる子どもたちが勝手に家の中に入ってきます。困るんです。」というメールがありました。これはまさに公園の側に住んでいる人のご意見で、それも大事なことですよね。確かに家にボールが当たって、勝手に取りに来られたら誰だって気分あんまりよくないですよ。僕も小さい頃は公園とか空き地でボールで遊んでいましたから、基本そういうふう遊ぶことが大事だと思うんですけど、ルールだと思うんですよ。おじいちゃんおばあちゃんが公園でゆっくりしているときに、子どもたちがボール蹴ってサッカーボールが飛んでいくみたいなことがあってもいいかな。小さいお子さんが遊びに来ているのに、そこでバットを振っていたら危ない。そういうルールの中で遊ぶというのが大事だと思います。公園は実は公園管理協力会という地元の方々が、トイレをきれいにしてくれるとか管理してくれています。町内会とか子ども会とかそういうところでルールづくりができれば、どんどんボール遊びしてくださいよということで、今増やしてきているところです。松山市内、色んなところにボール遊びができる公園がありますので、ちょっとご紹介していくと、平成18年にできたのが松山市平井町の平井公園。平成19年度には北条の河野別府にある文化の森ですね。平成20年には中野町といいまして久谷のほうになりますけども中野公園。平成21年には久万ノ台にある久万ノ台公園。平成22年には堀江にある堀江中央公園。平成23年度には小坂のほうにあります福音公園。平成24年度には白水台北公園。平成25年度には古川のはなみずき通りのほうですが古川公園。平成26年度には愛光町にある愛光公園。平成27年には2つ、久米窪田のほうの北窪田公園と石風呂ですから高浜にありますけども、すみれの北公園。毎年増やしています。私たちの思いはできるだけボール遊びのできる公園を増やしていきたいという思いなので、ルールを守って遊んでもらうことが大事だということですね。

【男性】 自分が関心があるテーマで地震と関連しているテーマですけど、老朽化という問題で公園や市営住宅など建て替えとか耐震工事とかいろいろあると思いますけれども、この前も由良町の港が陥没したり、そういうインフラ的なところの耐震工事はどれだけ進んでいくような状況ですか。教えていただければありがたいです。

【都市・交通計画課長】 市営住宅については2つあります。今まで50年くらいしか使えなかったものを長く使っていこうとする長寿命化で、耐震が足りてないものへの耐震補強とで、長寿命化がもうできない住宅についての統合建て替えをしております。来年度で今ある住宅については耐震

補強が終了しますので、安心していただけたらと思います。あと、都市・交通計画課が都市整備部にあるんですけども、公園とか道路、橋とかそういうものを所管していて、維持管理もしているところですけども、橋梁も数がものすごく多いので、重要橋梁から点検して補強していくものと、5年ぐらいの期間をもって調査して順次やっていくものと、計画的にやっています。

【市長】 私から補足を。小学校・中学校は平成28年度中ですかね。もう大体目処がたちました。色んな公共施設がありますけれども、まず子どもたちが長い時間を過ごす小学校・中学校は耐震化ができていないと不安になりますよね。小学校・中学校は思い切って計画を5年前倒しをして耐震化が完了します。公民館は人がたくさん集うところですけども、公民館も耐震化ができていないと困るので、これも計画を立ててやっております。例えば消防団のポンプ蔵置所は消防団の車があるところですけども、この耐震ができていなくて、出動したかったんですが出動できませんでしたという困りますよね。こういう消防団のポンプ蔵置所、消防自動車が入っているところも各地区にあると思いますけれども、今耐震化をしています。こういうふうに計画を立てながらやっていますので、市営住宅についてもそういうかたちになりますね。私は市長に就任させていただいて6年目ですけども、誰に投票してくださいという話ではなくて、皆さん選挙に行ってくださいよという話ですけども、皆さんニュースなどでも聞かれると思いますが、国自体が1千兆円を超える借金を抱えている。仕送りと似たところがありまして、国から地方へは地方交付税交付金とか国庫支出金というかたちで地方にお金が配付されています。仕送りと似たところがあって、親元が苦しいのに仕送りが増えるとはとても考えにくいですよ。そういう中で、どこの地方自治体も限られた財布の中でやっていかなくてはいけないですね。箱物をつくったら維持管理というのが必ず必要になりますので、松山市として何をつくってどう持ちこたえていくかを、よくよく考えてつくっていくことが大事だなと思っています。大学生世代ですから18～22歳くらいだと思いますが、皆さんもこれから考えていくことです。我々も皆さんの世代にきちっと渡していきたいと思いますが、やっぱり選挙というものの中で、皆さんの考えをしっかりと反映して行ってほしいなと思います。

【女性】 人間社会学科です。私の弟が自閉症なんですけど、小学生になるので年長のときに堀江小学校に行って学校で面接をするんですね。特別支援の学級があって「つつじ」と言うんですけど、その学級に入れるか、そ

れとも普通の学級でいけるかどうかを面接するんですけど、その場の先生たちがものすごく偏見のある方々で、私も親族として一緒に面接に行ったんですけど、お医者さんの判断としてはそこまで重度ではないと、軽度の自閉症だから大丈夫でしょうという判断だったんですけど、この診断書は本当に大丈夫ですかという意見が出ました。あと、児童クラブについても先ほどお話がありましたが、児童クラブの先生もものすごく偏見を持たれている方が多い。障がいのある方は入れませんという人もいました。そういう方たち、先生たちに対して教育というか指導ができないのかなと思いました。

【市長】 これは1回持ち帰らせてください。教育委員会の話になりますので、いい加減な返事をして帰るわけにはいかないので、1回持ち帰らせていただいて回答させていただいたらと思います。

【司会】 それでは最後に市長から本日の感想をお願いします。

【市長】 皆さんからたくさんのご意見をいただきまして、ありがとうございました。この世代別のタウンミーティングをやっていてよかったなと思います。色んな世代の人が集まって社会が形成されているので、若者世代の皆さんの意見が抜けるようではいけないので、皆さんのいろいろな意見を聞かせていただいて、また新たな気づきがありましたので、市政に反映したいと思います。意見対応表というのをつくってまして、こういう意見が出ました、このようにさせていただきますという意見対応表を必ずお返しをさせていただきますので、また見ていただいたらと思います。キャッチボールで、皆さんから意見をいただいたら我々はどうしようと思いますと、常に意見交換をしていくことが大事だと思いますので、市長へのわがまちメールもありますし、これからも皆さんの意見を聞かせていただいたらと思います。また今後とも、松山市に意見を寄せていただいたらと思います。本当にありがとうございました。

— 了 —